

住民の視点にたった防災情報共有プラットフォームの構築について

平成14年3月26日

森下 俊三

東日本電信電話株式会社

1. 提案の趣旨

点在する各種防災情報を統合的に収集し、かつ流通するための共通プラットフォームの確立

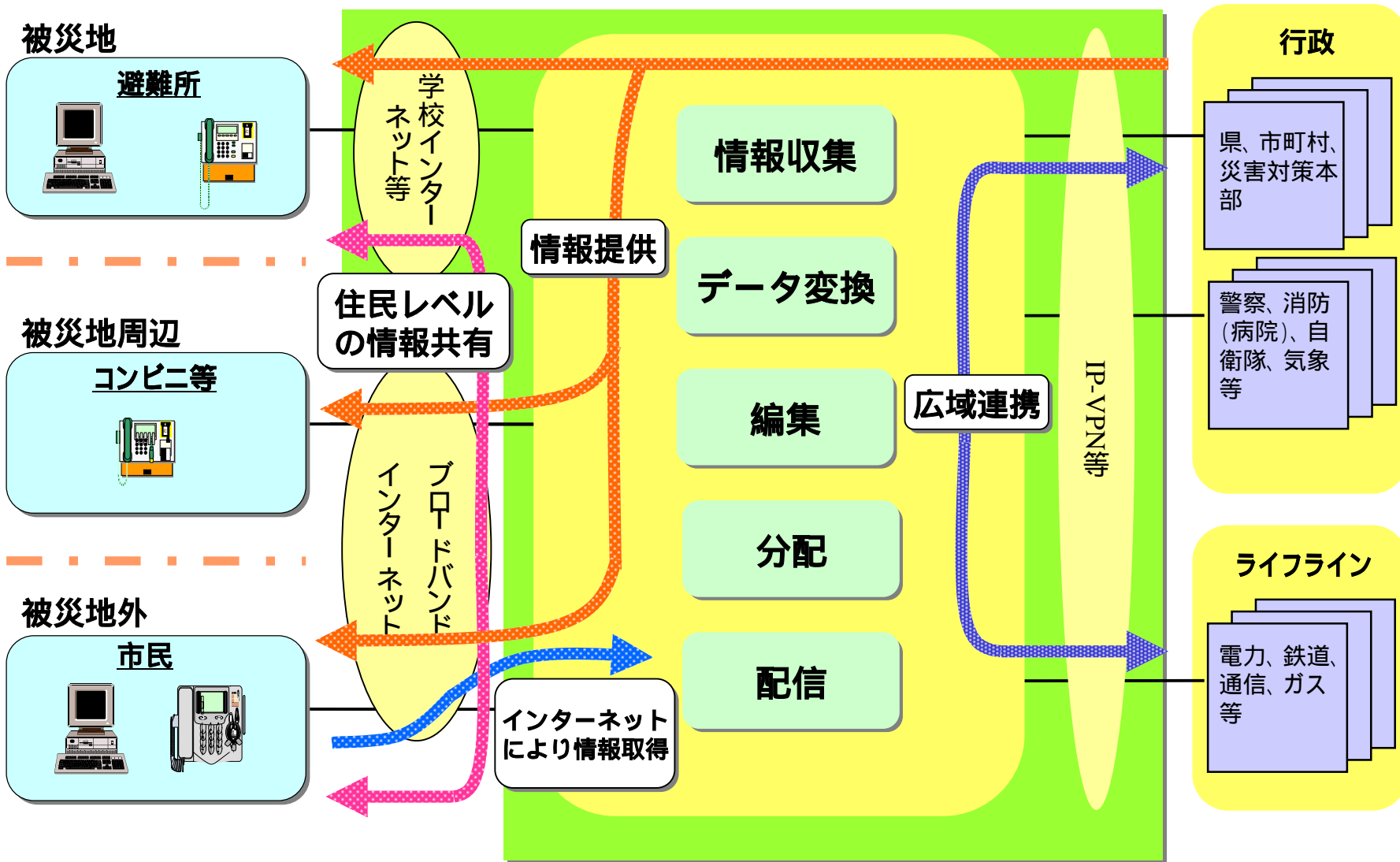
- ・自治体、防災関連機関の広域連携
- ・被災地住民、帰宅困難者等への情報提供
住民が「いつでも、どこでも」「誰でも」「必要な」情報を「容易に」入手する環境の実現
- ・インターフェースが異なる各種防災情報を変換・集約し、データベース化して配信

学校インターネット、地域イントラネットなど整備中の各種ITシステムの積極的活用

- ・平常時と災害時の切替え、平常時情報の保護等
- ・平常時利用の推進（一般住民等への防災情報の配信）等

2. 防災情報共有プラットフォームのイメージ

防災情報共有プラットフォーム



3. 住民視点の必要な情報とその流通

被災地

被災地外

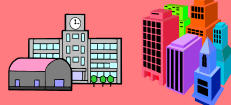
【住民】

避難先 自宅



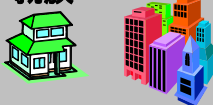
- ・災害状況(震源、規模)
- ・医療関係情報
- ・生活手段確保の情報 等

登校先 勤務先



- ・災害状況(震源、規模)
- ・周辺での活動状況
- ・帰宅するための交通情報

親族 勤務先



- ・災害状況(震源、規模)
- ・被災地へ移動するための交通情報、宿泊 等

・知人家族の安否

情報提供

情報提供メディア
情報提供場所 } 多種多様化
オンデマンドな情報

情報収集手段
の多種多様化

情報収集

放送、インターネット等
による民間レベルの情報提供

【情報発信者 / 所有者】

防災情報の横断的
情報共有

- 消防庁 / 気象庁**
 - ・震源、震度情報
 - ・気象情報 等
- 県**
 - ・医療情報
 - ・被災状況
 - ・生活物資情報
 - ・支援窓口情報
 - ・道路状況 等
- 市町村**
 - ・安否情報
 - ・避難所情報
 - ・生活物資情報
 - ・衛生情報
 - ・仮設住宅情報
- 警察**
 - ・被災状況
 - ・交通状況
 - ・活動状況
 - ・治安情報
- 消防**
 - ・被災状況
 - ・医療情報
 - ・活動状況
- ライフライン業者**
 - ・鉄道、バス運行状況
 - ・電話、電気、ガスの被災状況
 - ・電話、電気、ガスの復旧見通
- マスコミ**
 - ・地震の規模、震源、震度情報
 - ・気象情報
 - ・被災状況
 - ・活動状況
 - ・安否情報
 - ・交通状況
 - ・支援情報
 - ・支援窓口情報
- 企業(コンビニ 等)**
 - ・食料品供給情報
 - ・食料品物流情報
- Webサイト**
 - ・安否情報
 - ・ボランティア情報
 - ・被災状況
 - ・活動状況
 - 被災地の声
- 災害用伝言ダイヤル 等**

4. 防災情報共有プラットフォームのシステムコンセプト

センタに必要とする機能

- ・ 各自治体等情報の相互間流通のためのインタフェース整合
- ・ 配信のための情報編集
- ・ C D N (Contents Delivery Network) によるスムーズな情報配信
- ・ 災害を想定した信頼性確保 (分散、バックアップ) と負荷分散
- ・ アクセスに対するセキュリティチェック 等

配信系ネットワークに要求される機能

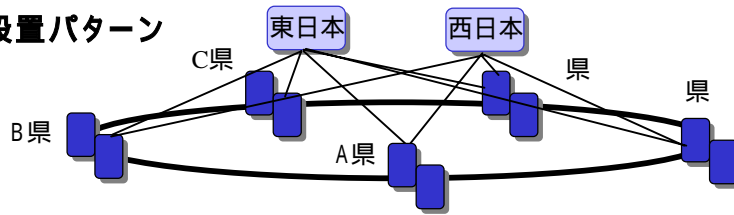
- ・ I P - V P Nによるセキュリティ、疎通の確保
- ・ ブロードバンド対応
- ・ 学校インターネット、地域イントラネットの活用 等

避難民、住民の利用側からの必要機能

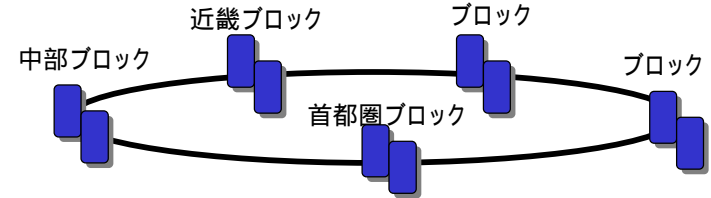
- ・ 簡易操作、住民の持ち込み端末、情報弱者対応
- ・ 画像、地図等による分かり易い情報提供
- ・ 避難所等規模に応じた接続設備等の適正配備 等

5.(1)防災情報共有プラットフォームのシステムイメージ

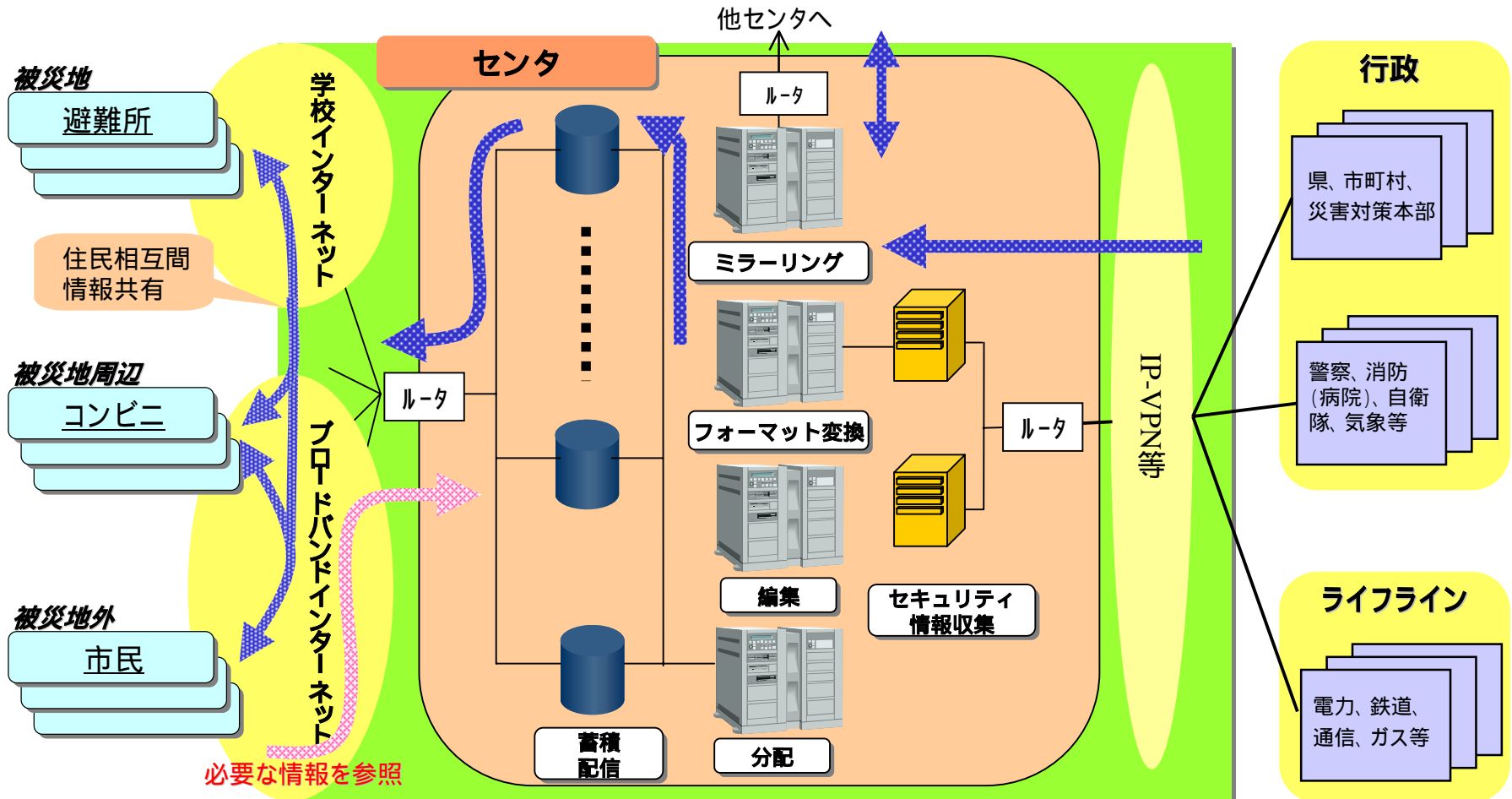
センタの設置パターン



【案1】
県ごとにセンタ設置。信頼性確保のため、2分散。



【案2】
地域ブロックごとにセンタ設置。信頼性確保のため、2分散。



5.(2) 避難民、住民から見たシステムイメージ

避難所（学校等）のLAN環境、非常用通信設備等を総合的に活用し避難民に必要な情報を配信
 被災地域近郊のコンビニ、スーパー、ファミレスなどを物流拠点とし、自在に要求物資の供給
 被災地域以外の家庭や会社、学校などへ被災地域情報を配信

